

川での遊び文化の回復・創造による

人と川の良い関係性の再構築

常葉大学社会環境学部山田辰美ゼミ

皆川友佑・山崎僚太郎

1. はじめに

河川は、主食を育てる水田の水源としてだけでなく、ふるさとの自然や懐かしい原体験の場として、流域住民と深い関わりがあった。川は大切な生活環境であるだけでなく、子どもの遊びや自然体験の場としても重要である。川遊びは身近な自然環境で実施できる貴重な直接体験であり、野外での遊びの少ない現代の子どもにとってかけがえのない学びや育ちを生み出す場であると考えている。つまり、川との触れ合いは子どもたちにとってふるさと原体験であり、生きる力の獲得となる貴重な体験の場であると考えている。

一方で、河川愛護や防災の意識の低下が危惧される背景には、社会環境の変化に伴う人と川の関わりの希薄化が原因として考えられる。特に、川で遊ぶ子どもの姿を見ることは少なくなった。そんな中、「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」の助成研究として、静岡県河川企画課が川遊びの回復をテーマとした上記の課題が提示された。

これまで子どもを対象とする川遊びイベントを企画・参加していた私たちは、この課題に取り組むことにした。川の現場で目を輝かせていた子どもの反応を知る者として、もっと多くの子どものわくわくする川遊びを経験させたい。「自然大好き、ふるさと大好き」な子どもが増えるような人と川の良い関係性の再構築のために、具体的な提案を検討したい。



2. 目的と方法

県内各所で継続されている川の自然体験イベントの実態を、ケーススタディとして参加・調査した。近くに河川を有する小中学校や川イベントに参加している子どもと保護者から、川や川遊びの実態や意識を調査した。それらの結果から、子どもと川との関わりが希薄化している現状と原因を明らかにし、子どもが川で遊ぶ意義を検討したい。

- ① 川の自然体験イベントに自ら参加し、アクティビティを記録し、子ども達の反応を観察する。そこから川遊びの価値や意義を探る。
- ② 子ども、親、祖父母（保護者）の三世代にアンケートを実施し、川や川遊びに対する関りの実態や認識を把握する。そこから川遊びの再構築について課題を抽出する。

3. 研究結果①

平成 29 年 8 月～10 月にかけて 4 つの自然体験イベントに参加し、川や水に関するオリジナルのアクティビティを実施した。

1) 里の楽校夏の子どもキャンプ：NPO 法人里の楽校が主催。四季折々に川や里の自然遊びや文化を実施。地域密着型の活動で、感性豊かな子どもの育成に努める。学生リーダーの養成にも力を入れている。河川財団の助成を受けるなど、約 20 年の実績がある。

2) 富士市水辺探検隊：富士市と県土木、常葉大学の共同で十数年継続している。身近な川を環境教育のステージにするための基礎調査から、オリジナルのアクティビティの考案し、地域で評価が高い。

3) 富士宮市水の不思議探検隊：富士宮市の環境保全課が主催で、今年は 4 回目。水の特性に対してふしぎ体験を通して興味を持たせ、水への感謝や大切にする心を育てる。常葉大学の学生がおもしろい実験や劇にアレンジしている。薬品会社がスポンサー。

4) エコパ自然塾：エコパハウスが小笠山の自然を使った環境教育を毎年 7 回実施している人気講座で十数年継続している。小学 1～6 年生が参加。森や水辺を中心に野生生物の学習や虫捕りや間伐などの野外体験を実施している。

5) 川遊びの効果の検討

- ・多様な川遊びの展開があり、多くの子どもが熱心な取り組みを見せた。
- ・川が苦手な子どもも、仲間との交流や協力を通して、自然体験に強い興味を抱くようになった。
- ・直接体験を通して、強い感動、人間関係の形成、生物や命とのふれあいなどが得られ、「生きる力」の獲得に繋がっていた。

4. 研究結果②

6 つの川遊びイベントの参加者、3 つの小中学校に対しアンケート調査を実施。自然体験イベントで 337 件、学校で 825 件、総数 1162 件の有効票の回収に成功。



リバートレッキング（里の楽校）



富士山の湧水の秘密（富士市水辺探検隊）



川べりの竹を使って水鉄砲作り（里の楽校）



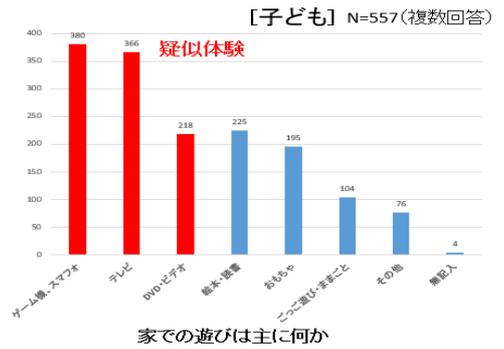
溜池のかいぼり（エコパ自然塾）

1) 休日、野外で遊ぶのは約2割の子ども。室内の遊びはゲームやテレビなどの疑似体験が多くを占めていた。(右図参照)

・外で遊んでいる子どもが22.5%

	1~3年生	4~6年生	中学生
外で過ごす	24.6%	22.3%	12.5%

普段の土日の遊びはどこで過ごすか[子ども]



2) 保護者・子ども共に遊べる川は近くにあると5割以上が答え、約7割の保護者や子どもが川で遊ばせたい、遊びたいと答えた。(右図参照)

	保護者	子ども
はい	65.6%	56.0%

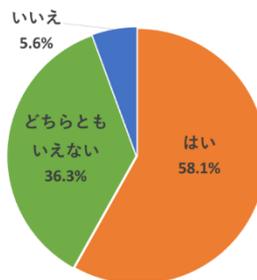
住んでいた場所の近くに遊べる川はあるか

	保護者	子ども
はい	69.7%	68.4%

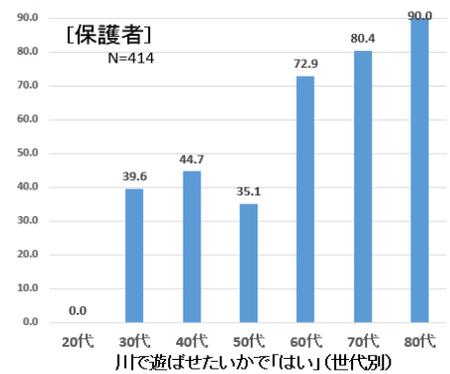
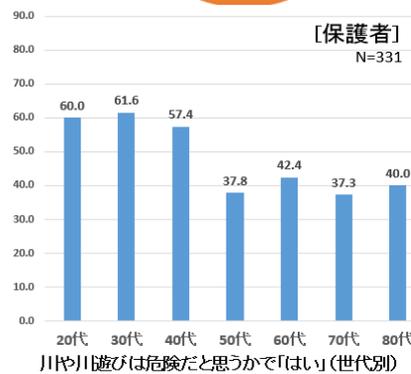
川で遊ばせたい(したい)か

3) 「川は危険だと思うか」という質問に、保護者は6割、子どもも約4割が川は危険だという認識を持っている。しかし一方で、7割の保護者が川で遊ばせたいという矛盾が注目される。保護者の「川は危険だと思う」回答数を年代別で見ると、若い世代ほど川を危険と感じ、遊ばせたくないと考えている。高齢者ほど川は危険ではなく、子どもを遊ばせたいという考えが強くなる。(右図参照) この結果から、このまま時代が経過すると、川と人の関わりがより希薄化するという事である。

川は危険だと思う(保護者)



川で遊ばせたい(保護者)



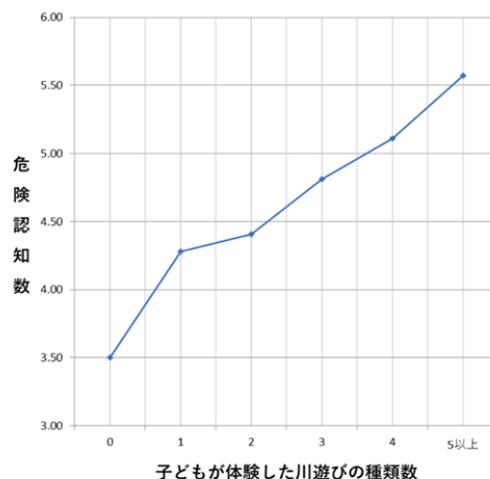
4) 子どもは「川は怖いところだと思うか」の質問に全体の平均で約4割が「はい」と答えているが、川遊びイベントを経験した子に絞ってみると、わずか約2割になった。このことから川遊び経験は川への恐怖意識を下げる効果があると言える。

子どもへのアンケート			
	全体	イベント	学校
川は怖いところだと思うか	36.8%	25.7%	42.1%

5) 川遊びの経験の種類数と川の危険個所の認知数をまとめた。体験の種類が豊富になるほ

ど、危険性を多く把握できるようになっていくという相関が強くあるということがわかる。

(右図参照)

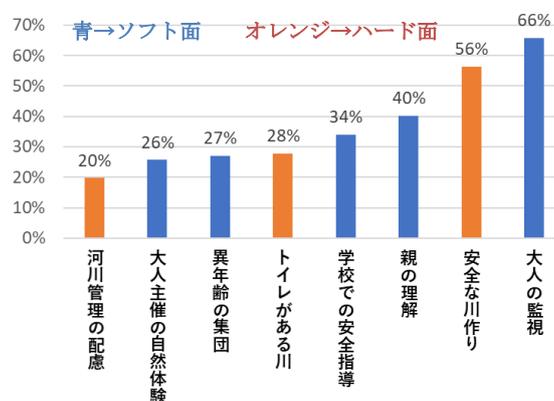


- 6) 保護者に子どもに川遊びをさせるために、何が必要かについて回答をいただいた。河川管理上の土木工事が伴うようなハードな要望よりも、地域の人々の努力で実現できるソフトな対応が多く上がっている。川遊びの意義や必要性を地域社会で確認し合えることができれば、川遊びでいい子を育てる社会の構築も可能性が見えてくると考えられる。

問：子どもに川遊びをさせるために何が必要だと思うか

考察

現代の子どもは近くに遊べる川はあるが、室内で過ごす子どもが多いのは、テレビ・電子ゲーム・インターネットの普及などの社会環境変化の影響がうかがえた。川は現代の子どもの健全な心身の発達に貢献できる教育的なポテンシャルを多く持つ貴重なフィールドである。特にバーチャルな刺激によって無気力で意欲の低下した子どもの目を輝かすことができる遊びの宝庫である。



保護者・子ども共に高い割合で、川で遊ばせたい（遊びたい）と考えている。しかし危険意識から川から遠のいているのが現実のようだ。多くの保護者が川は危険だが遊ばせたいというジレンマを抱えている。また、川との関わりが希薄化している若い世代で、川への依存意識が低下している傾向が分かった。

川遊びできる安全な川作りが課題であるが、面的な整備は困難であり、現実的には地域の中で最適な場所を選択し拠点として整備することが考えられる。トイレや駐車場を持つ公民館や公園などが近くにある水辺が、多くの大人の監視が得られやすく好ましい。地域活動や子育て支援などで実績のある NPO 法人などが、週末や長期休暇を活用して、川の自然体験イベントを展開することが望まれる。そのための優れた川体験のアクティビティは各地に蓄積されている。

子どもは川遊びを経験することで、川への恐怖心が薄まり、親しみが強くなる。さらに、川遊びをしながら川の危険性を学び、危険予知能力を高めているようだ。自然との付き合い方を子どもは、体験を通して学んでいる。人と川の関係性の希薄化傾向を打開のため、川の持つ多面的価値を再認識すること以上に、まずは川遊び体験を通して川の魅力に触れることが重要なことである。子どもの心身の健全な発達に大切な糧となる川遊びの機会を増やし、たくさんの子どもの川遊びの楽しさを気付かせたい。

「川遊び」アンケート(保護者版)にご協力をお願いします

この度は私共の活動に参加していただき、ありがとうございます。川遊びなどの川文化や、川と子どもの関係について、調査研究をしています。今後の活動の参考にしたいため、アンケートへのご協力をお願いします。当てはまるもの(AやBなど)に丸をつけて下さい。()には自由にお書き下さい。

- あなたについて教えてください。(性別：A 男 B 女) (年齢：____ 歳)
- ご自身が子どものときによく(月に1・2回以上)川遊びをしましたか?
A.はい B.どちらともいえない C.いいえ
- 川でどんな遊びを体験したことがありますか?(該当するものすべてに○、特に該当は◎)
A.水浴び・飛び込み・水泳 B.水切り・石投げ C.砂場遊び D.ままごと E.石積み・石拾い
F.笹船・木流し G.魚捕り・釣り H.虫取り I.川渡り・飛び石 J.木登り K.鬼ごっこ
L.その他()
- 川遊びはとても楽しかったですか?
A.はい B.どちらともいえない C.いいえ
- 住んでいた場所の近く(歩いて遊びに行ける所)に川はありましたか?
A.はい B.どちらともいえない C.いいえ
- 子どもを川で遊ばせたいですか?
A.はい B.どちらともいえない C.いいえ
- 川や川遊びは危険だと思いますか?
A.はい B.どちらともいえない C.いいえ
- あなたが考える川や川遊びの危険性とは何ですか?(該当するものすべてに○、特に該当は◎)
A.深場 B.流れ C.広さ D.草むらや藪 E.ごつごつした石の河原 F.川底や堤防が滑る
G.へび・かえる H.人の目が届かない I.堤防や落差工などの人工構造物 J.濁り・汚れ
K.その他()
- 現代の子どもに川遊びをさせるために何が必要だと思いますか?
A.安全・安心な川作り B.トイレがある川の遊び場の整備 C.大人の監視の目 D.親の理解
E.学校での安全指導 F.大人主催の自然体験会 G.異年齢の遊び集団 H.河川管理上の配慮
I.その他()
- 子どもが川で遊ぶことについて、自由にご意見をお書き下さい。
- 現在の川について自由にご意見をお書き下さい。

アンケートご協力ありがとうございました。

「川遊び」アンケート(子ども版)にご協力をお願いします

南葉文学山田辰美ゼミでの調査研究の参考にしたいため「川遊び」に関するアンケートへのご協力をお願いします。当てはまるもの(AやB)に丸をつけてください

- あなたについて教えてください。(性別：A 男 B 女) (学年：____ 年)
- あなたは川や川遊びが好きですか?
A.はい B.どちらともいえない C.いいえ
- あなたがやったことのある川遊びは何ですか?
A.水浴び・飛び込み・水泳 B.水切り・石投げ C.砂場遊び D.ままごと E.石積み・石拾い
F.笹船・木流し G.魚捕り・釣り H.虫取り I.川渡り・飛び石 J.木登り K.鬼ごっこ
L.その他()
- 住んでいた場所の近く(歩いて遊びに行けるところ)に遊ぶような川はありますか?
A.はい B.どちらともいえない C.いいえ
- 「川で遊んではいけない」と言われたことはありますか?
A.はい B.いいえ
- 5の質問で「はい」と答えた方に聞きます。誰に言われましたか?
A.親 B.学校の先生 C.近所の人 D.友達・上級生 E.警察の人 F.その他()
- ふだんの土曜・日曜の過ごし方で外遊び(野外)より家遊びが多いですか?
A.はい B.どちらともいえない C.いいえ
- 家での遊びは主に何ですか?(あてはまるものすべてに○、特に好きな遊びに◎をつけて)
A.ゲーム機・スマホ B.テレビ C.DVD・ビデオ D.おもちゃ E.ごっこ遊び・ままごと
F.絵本・読書 G.その他()
- 川は怖いところだと思いますか?
A.はい B.どちらともいえない C.いいえ
- 川で怖いのはどんなところですか?あてはまるものすべてに○をつけて
A.深い場所 B.強い流れ C.広さ D.草むらや藪 E.ごつごつした石の河原 F.にごり・汚れ
G.へび・かえる H.夫がいない I.コンクリートや鉄などの構造物 J.川底や堤防が滑る
K.その他()
- 川がどのようになるとうれしいですか?

アンケートご協力ありがとうございました。